

日本余暇学会定期総会議事録

日時 2011年10月9日(日) 12時20分～13時20分
 場所 実践女子短期大学
 議長 澤内隆 書記 山田貴史

1号議案
 平成22年度活動報告(藺田会長)
 *詳細は第15回研究大会プログラムp. 33
 「承認」するもの多数

2号議案
 平成22年度会計報告(辰巳事務局長)
 *詳細は第15回研究大会プログラムp. 35
 監事報告 山岡平三
 「承認」するもの多数

3号議案
 平成23年度事業計画案(藺田会長)
 *詳細は第15回研究大会プログラムp. 37
 「承認」するもの多数

4号議案
 平成23年度予算(辰巳事務局長)
 *詳細は第15回研究大会プログラムp. 39
 「承認」するもの多数

5号議案
 新しい理事、役員について(会長)
 顧問(新任): 中藤保則、
 (留任): 瀬沼克彰
 理事(留任): 下島康史(桜美林大学)
 杉座秀親(尚絅学院大学) 藺田碩哉(実践短期大学) 高橋進
 (共栄大学) 辰巳厚子(聖徳大学 他) 宮入恭平(東京経済
 大学 他)
 山田貴史(湘中央学園 他) 山本存(甲南女子大学)
 理事(新任): 浮田千枝子(平成帝京大学) 徳江順一郎(東
 洋大学) 松尾哲矢(立教大学)
 幹事(留任): 加藤裕康(東京経済大学 他) (新任): 小
 澤考人(東海大学 他)
 会計監査:(留任): 飯坂徳雄、
 (新任): 浅川恵司(榊クラブツーリズム)
 「承認」するもの多数。

6号議案
 「ツーリズム学会」との提携について(藺田会長)
 ツーリズム学会との統合、合併に関する検討を行う。統合・
 合併に向かって進むことを基本的方向とし、「統合・合併問
 題担当理事・会員」5人を任命する〔藺田会長、杉座副会長、
 辰巳事務局長、徳江会員、飯島会員〕
 *進捗状況報告を義務づけたうえで、5人を任命することに
 する。
 「承認」するもの多数。
 13時20分閉会

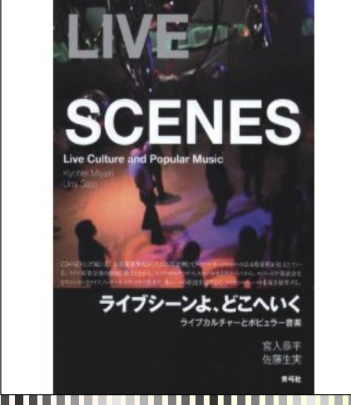
探して歩く新しい旅
 や自分だけの“フロ
 ンティア”探しの旅な
 どツーリズムの新た
 な萌芽がみられる。
 今後、発地主導の
 「マス型」ツーリス
 ムモデルは、さらに
 不調となるだろう。
 一方、若者(顧客)
 と企業・地域の共感・
 共創関係を構築して
 いく地域(着地)主
 導のツーリズムの創
 出が主流となつて
 いくだろう。しか
 し、発地型にせよ
 着地型にせよ、
 「供給者主導」で
 あることに変わり
 はない。顧客と
 の「共感・共創関
 係」に基づいた、
 顧客主導のツーリ
 ズムのあり方を模
 索することが大き
 な課題と考える。
 (報告 辰巳)

<新刊 紹介>
 宮入恭平、佐藤生実
 『ライブシーンよ、どこへいくーライブ
 カルチャーとポピュラー音楽』青弓社

ポピュラー音楽のコンサートやイベントへの参加は、身近なレジャー活動のひとつとして定着している。1997～98年の「CDバブル」をピークに規模の縮小が続くCD市場に対して、コンサートやイベントなどのライブ・エンターテインメント市場は、2000年代をとおして規模の拡大が見られた。そして音楽産業では、「ライブの可能性への期待」が語られるようになった。

今や「ライブ」は自明のものとして、馴染み深いポピュラー文化として認識されている。しかし、「ライブ」とは一体どのようなものなのだろうか？そして、そもそも何を意味しているのだろうか？

本書では、コンサートホール、ライブハウス、クラブ、フェスティバル、発表会、インターネット、そしてアキバ系など、さまざまなライブシーンの状況を活写して、ポピュラー音楽を中心とするライブカルチャーの未来を展望している。



日本余暇学会ニュース

発行所 日本余暇学会 発行人 藺田碩哉 発行日 平成二十三年十月二十八日

日本余暇学会事務局
 〒191-0016
 日野市神明1-13-1
 実践女子短期大学
 生活福祉学科藺田研究室内
 TEL/FAX 042-584-5428
 e-mail
 info@yokagakkai.jp
 Home Page
 http://www.yokagakkai.jp/

余暇とあたらしい公共

東京で研究大会を開催

……第十五回日本余暇学会大会総括……

第十五回を迎えた日
 本余暇学会研究大会は、
 十月九日、東京都日野
 市・実践女子短大を会
 場に開催された(主催・
 日本余暇学会、共催・
 ツーリズム学会)
 。今回は一日のプログ
 ラムで開催されたため、

盛りだくさんの大会と
 なった。
 藺田会長の開会挨拶
 では、「余暇と公共性」
 というテーマをとりあ
 げ、三・一以後の社
 会そして余暇のあり方
 を問い直し、「私事」
 と思われがちな余暇の
 もつ「公共性」を改め
 て問い直す意義を提案
 した。

それに続き、各会員
 の研究発表が行われた。
 二会場に別れA会場で
 は余暇と公共性、B会
 場ではその他のテーマ、
 それぞれ六題、合計十
 二題が発表された。A
 会場では、辰巳、加藤、



会長あいさつ

第76号

宮本、宮田、澤内、
 今各会員、B会場では
 徳江、下島、山田、佐々
 木、畠田各会員、そし
 て宮入、佐藤、歌川各
 会員の合同発表が行わ
 れた(発表順)。

今回は一日の開催な
 がら、十人以上の発表
 があり、会場を分散せ
 ざるを得なかった。す
 べての発表を聴取でき
 ないのは大変残念だっ
 たが、発表者の増加は
 学会活性化のためには
 喜ぶべきことで、うれ
 しい悲鳴となった。

休憩を挟んで、日本
 余暇学会総会が開催さ
 れた。決算、予算の承
 認、事業計画に関する
 議論、新理事の承認、
 ツーリズム学会との連
 携、統合などに関する
 議論など、総会は予定
 時間を超え、多くの会
 員の活発な発言がみら
 れた(四面)。



講演する藺田氏

稲垣氏もそのま
 だ中で「漂う」様
 が見てとれた。「身
 体」を軸として、「身
 社」を切り込む稲垣
 氏らしく、その行
 動

ポジウムも兼ね、「新
 しい公共に向けて余
 は何ができるか」とい
 うテーマを超越した議
 論となった。各テ
 ブルに分散し、最終的

午後には驚かされた。
 による「三・一」以
 後の日本人のライフス
 タイルとスポーツ文化
 の行方、「公」と
 「私」の交わる場所
 をテーマとする記念講
 演で幕を開けた。

稲垣氏はスポーツ史
 の立場から、三・一
 後の社会を「脱構築」
 してみせた。日本社会
 では、三・一後の社
 会をどのように担うか
 が模索されているが、

力には驚かされた。
 言語、思想、行動、
 そのすべてが渾然
 一体となつて、な
 にかを動かそうと
 する姿勢がみえて
 来た。

その後、日本余
 暇学会初の試み
 「ワールド・カフェ」
 形式の全体討論会
 を行った。ゲスト
 スピーカーの稲垣
 氏も飛び入り参加
 し、アフターシン

会費納入のお願い

平成23年度会費の納入をよろしくお願ひします。
 口座番号: 00140-9-729065
 加入者名: 日本余暇学会
 会費: 一般会員10,000円
 学生会員5,000円
 *新しい学会パンフレットができました。
 余暇に関心のある方に、入会をお勧めください。

に議論を統合する
という、はじめ
の試みに最初は
まどう会員が多数
だった。しかし酒
量の増加と並行す
るように議論も熱
を帯び、堅苦しくな
った。議論も各人の立
場から様々な価値
を共有するうちに、
まるで「同僚」の
飲み会といった雰
囲気になっていく
た。「親睦」を深
め、議論を深める
という目的を達成
するには「赤提灯」
以上の効果があっ
たようだ（別記事
参照）。

「ワールドカフェ?」。大会1ヶ月ほど前
に園田会長からワールドカフェ総合司会者に
任命されたとき、私はそれがどういったもの
かまったくわからなかった。いただいた資料
を読み込み、前日までドタバタと準備をし、
当日司会者として大まかなオリエンテーショ
ンを行ったが、実際のところ、はじめてみる
までどのようなものになるのか、うまく行く
のか、少々不安であった。



私が手探りの状態でワールドカフェはスター
トしたのであった。

ワールドカフェとは、会場に
点在する定員5、6人程度のテー
ブル（カフェ）を歩き回りなが
ら、意見交換を行っていく討論
形式のひとつである。特定の参
加者が議論を支配しがちな一般
的な討論会と異なり、少人数で
コーヒーなどをのみながらざっ

ざらんと議論が行えるワールドカフェの「公
共性」。何か一つの結論を導くというよりも、
それぞれの会話の過程、あるいは参加者の経
験そのものを大切にする……。このような
ワールドカフェの理念は美しく、今大会のテー
マ（「余暇と新しい公共性」）にぴったりで
あったが、いつだって理念は美しすぎるもの
なのだ。と、半ば懐疑的であった私は、それ
でもそれに近づける努力はしなければと、各
テーブルの進行役に倉品氏、下島氏、澤内氏、
近藤氏、徳江氏と強力な人材を据え、恥なん
か忘れさせ口を滑らかにしてくれるアルコール、
そしてそのつまみを用意したのであった。
実際にはじめてみると、とまどっていた
参加者の顔が次第に上気している（アルコー

ルのせいかな?) のがわかった。誰も見向きも
しないソフトドリンクに、瞬間に減ってい
くアルコール……。どこからか、「酒が足
りない!」などと声が聞こえ、あわてて近く
のコンビニに買出しに行くという一幕もあっ
た。時間が過ぎても議論が終わらず、熱心に
話し込むテーブルも見受けられた。

30分×4テーブルでの議論を終え、最終報
告をホスト役の方々にやっていただいた。各
テーブル上には模造紙がしかれ、参加者の旅
の記録として自由にメモ書きしていただいた
のだが、ホスト役の方々はそれらを参照とし
ながら、多岐にわたった（わたりすぎた）議
論を丁寧にユーモラスにまとめてくださり、
会場からはうなり声や笑い声があがった。急
遽参加していただいた稲垣正浩先生もご自身
のブログで、今回のワールドカフェについて、

プラトンの「饗宴」の
ようだったと好意的な
コメントを書いてくだ
さった。

少々不安ながらもス
タートした今回のワー
ルドカフェだったが、
ホスト役や大会実行委
員の方々をはじめとし、

なにより参加者のみなさまのご協力もあって、
想像以上に公共的かつ民主的な討論会が出来
たと思っている。司会者としては反省点も多
いが、もし次回があるのであれば、切らすこ
とのないアルコールを用意してお待ちするつ
もりである。

ありがとうございました。

（なお、それぞ
れのテーブルで
の詳しい（真面
目な）議論の内
容は、「余暇学
研究」でまとめ
るつもりである）



九月三〇日桜美
林大学四ツ谷キャン
パスで、長年
「レジャー白書」
の編集や観光活性
化にかかわってこ
られた丁野朗氏を、
講師にお迎えして、
求められる観光・
レジャーのパラダ
イムソフトと新た
な需要創造・地域
活性化について研
究会を開催しまし
た。

の上で成立する複合
行為である。だから、
地域の再生なくして
は本場の意味での観
光再生には繋がらな
い。逆に観光業には
こうした地域再生を
リードする大きな役
割があるのではない
だろうか。

顧客価値をどう読み
解くかということだ
が、人々の「癒され
たい」という自然・
健康欲求、「趣味の
仲間をつくりたい」
というふれあい欲求、
「自分を磨きたい」
という能力向上欲求、
「社会と係わりたい」
という社会性欲求を

（ランドなど）を連携
させ、顧客価値に対
応したかたちで編集
していく。
3、編集視点のニュー
観光とは、顧客価値
を見抜く文化的行為
のことである。編集
視点を変えて、エコ
ロジー、スロー等、
顧客の価値観を読み
解き、これらをも
「装置化」するこ
とによって、観光
地域づくりやプロ
グラム開発に取り
組む。

た、地域共通のプラッ
トフォーム&コンソー
シアム（事業体）を
つくり、人、モノ、
カネ、情報、インフ
ラ、連携（広域地域
連携・テーマ連携）
を進めることが重要
だ。

5、人材のニュー
コーディネート等高
度人材からガイド等
の現場人材まで、新
たな育成を行う必要
がある。
若者にも支持される観
光地域づくりをめざし
て
メリハリの効いた
「消費スタイル」マス
メディア・SNSの
併用など若者のライ
フスタイルは旅にも
表れている。また、
たまり場を

レジャー・スタディーズ研究会報告 余暇の意味変化と観光まちづくり

（社）日本観光振興協会 理事・総合研究所長
丁野朗氏

観光まちづくり
観光は地域の多様
な資源・多様な産業

ツリズム・ニュー
のための視点
旅に新たな感動
と「テーマ」が求
められる時代、ツ
リズムも、さまざ
まな革新が求めら
れている。では、
いま求められるニ
ューツリズムの「ニ
ュー」とは何か。それ
を5つ考えてみたい。
1、顧客価値のニ
ュー

うまくつかむことが
重要だ。
2、資源のニュー
地域の「強み」（資
源）を交流（観光）
に活かすことを考え
る。具体的には、既
存の強い観光資源だ
けではなく、多様な
「強み」を持つ資源
（産業や都市の遺産、
工場・工房、棚田・
田園景観、農産品ブ

「レジャー・スタディーズ2010研究会 秋」
震災等の影響で延期となっておりました研究会を再開します。
さまざまな学問分野で余暇問題に関わりのある研究を進めてお
られる研究者を招き、その研究成果を紹介いただき、余暇学会のメ
ンバーと意見交換を行います。
11月 18日（金）柴田邦臣氏（大妻女子大学）
「ネットワーク（メディア）文化と情報ボランティア
（仮題）」
12月16日（金）柘瀧俊子氏（淑徳大学）「働き方と余暇
（仮題）」
場所：桜美林大学 四ツ谷キャンパス（JR四ツ谷駅、地下鉄丸ノ内
線四ツ谷駅下車3分）
時間：午後6時から8時まで